

海津郡3町合併協議会

だより

2004年10月
海津町・平田町・南濃町

編集・発行

海津郡3町合併協議会 〒503-0392
岐阜県海津郡平田町今尾557 平田町役場内
TEL 0584-65-0175 FAX 0584-66-4140
http://www.nannou.com/~gappei/

No.24



3町長ががっちり握手

●合併協定調印式●

九月十日、平田町ふるさと会館において、合併協定調印式が行われました。調印式は、合併協議の集大成として、三町長がその内容を最終的に確認するものです。

町長らは、合併協議会委員、三町の議会議員が見守るなか、協定書に署名・押印。続いて、合併協議会委員及び議会議員を代表して三町の議長と松永県議会議員が、立会人として署名しました。

また、協議会長である横山善郎平田町長が、「合併後、新しく生まれる海津市は、人口約四万一千二百人、面積百十二平方キロメートルとなります。岐阜県の南の玄関口として、観光・農業などの面において県内屈指の地域として発展していく可能性を秘めていると、大きな期待を抱いております。」と、主催者を代表してあいさつ。会場から大きな拍手が送られました。

(写真) 固い握手を交わす三町長

合併申請書を提出

「海津市」誕生に向けてカウントダウン



▲西濃地域振興局長に合併申請書を手渡す3町長

平成十六年九月十三日に海津町議会、十五日に平田町議会、十七日に南濃町議会において、それぞれ合併関連議案が可決されました。これを受けて、九月二十二日、三町の町長は、勝野正敏西濃地域振興局長を訪れ、合併申請書を提出しました。

今後、県では、総務省との協議を行うとともに、その回答を得て十二月の県議会に提案し、審議されることとなります。

また、県議会で議決されれば、県知事より総務大臣に廃置分合の届け出が行われ、官報告示により法的な効力が発生することとなります。これにより、平成十七年三月二十八日、「海津市」が誕生することとなります。

動き

議会議員の在任特例は
六月間に

全協定項目を確認

●第三十回合併協議会●

第三十回合併協議会が、八月二十三日、平田町役場大会議室において開催されました。協議会の概要は、次のとおりです。

協議事項

○協議第五十号
合併に期日の変更に伴う調整方針の取扱いについて

「議会の議員の定数及び任期の取扱いについて（平成十五年三月四日第九回合併協議会確認）」の②を次のように変更する。

② 議会の議員については、市町村の合併の特例に関する法律第七条第一

項第一号の規定を適用し、合併後六月間、引き続き新市の議会の議員として在任する。」という調整方針（案）が確認されました。

○協議第五十九号
合併協定書（案）について
本件は、「協議第四十五号 合併協定書について」で確認済みですが、「調整方針が変更されたことなどにより、再び協議のテーブルに載せられました。」
なお、原案どおり確認されました。



海津義士太鼓

(海津町)



宝曆治水工事に貢献し、命を落とした薩摩義士の遺徳を偲ぶ「治水神社春季大祭」。この神事で披露される勇壮な和太鼓が海津義士太鼓です。

現在、四歳から高校生までの十五人が参加。祝い太鼓、童太鼓、祭ばやしなどにバチを振ります。「感謝の気持ちを忘れず、受け継いでいってほしいものです。」と指導者。三十年ほどの歴史を持ち、その活動は地域に根付いています。

平田千代保太鼓

(平田町)



伝統芸能の継承、和太鼓の楽しさを広く皆さんに知ってもらおうと、平成十二年に設立されたのが平田千代保太鼓保存会。

会員は一般の方だけでなく、小・中・高校生も加わり世代を超えます。毎週月曜日、社会教育施設を会場に練習が行われ、「こん平田フェスティバル」、「こん平田ワールドin夏・ふるさと夏まつり」などに出演、イベントを盛り上げています。

ゆとりの森・夢太鼓

(南濃町)



生きがい活動支援通所事業として平成十二年度にスタートしたのが「ゆとりの森・夢太鼓」です。

会員は、全員が女性。太鼓が大好きという皆さんばかりとあって、リズムも優しさと温かみを感じられます。「まだ未熟ですが、いつまでも健康で若々しくありたいという願いを込めて参加しています。」と会員の一人。「いきいき なんのう」や盆踊り大会で発表しています。

編集後記

松山(南濃町)には、千本にも及ぶ年輪を刻む大楠があります。芽生えたのは平安時代。紫式部の「源氏物語」や清少納言の「枕草子」などの作品が生まれた頃です。根周り九メートルを超える巨木は、しっかりと大地をくわえ込み、天に向けてその枝をかざします。

幾多の地震や台風にも負けず、戦禍を免れて、たくましく生きてきました。地域で暮らす多くの人たちの生活や喜怒哀楽を眺めながら。「おーい、大楠。私たちはあなたに比べて、何てちっけなんだろう。でも、一生懸命に生きているよ。」大楠が、サワサワと緑の葉を震わせ、ゆっくりと大きな息をします。やがて、それは一筋の風となって銀色に輝くスキの穂を躍らせ、川面に光の帯を残し駆け抜けます。皆さんも頬を優しくなでる清新な気配を感じたのでは。(T・M)